

第 15 回 第 19 章 経営意思決定の特殊原価分析①短期差額原価収益分析

<本日のテーマ>

理論 1 問→15 回（累積的回収期間法）、18 回（関連原価の 2 つの目的）
20 回（機会原価と支出原価の違い）、21 回（特殊原価調査の具体例）

19 章全体からは結構出ています。ただ練習問題である程度対応できたようです。

計算問題も第 4 問で頻出です。これは設例と練習問題をやりこめば大丈夫でしょう。
結構試験対策には重要な部分ですね。気合を入れて頑張りましょう。

① そもそも特殊原価調査とは

② 意思決定とは

③ 業務的意思決定（手不足と手あまり）

① そもそも特殊原価調査とは

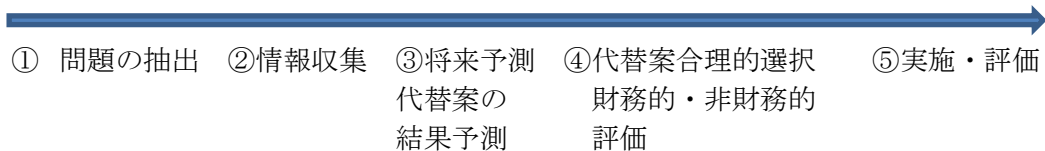
特殊→特殊なので、今まで学んできた、会計制度に関連する原価ではない

調査→実際の原価計算ではなく、何かのための調査のようです。

経営意思決定（あの客からの値引き要請どうする？1億円の機械入れ替える？）のために必要な原価計算です

② 投資意思決定とは

代替案の探索と選択



定量情報＝財務情報（会計的数値情報）

定性情報＝非財務情報（組織・営業的側面など）

短期的意思決定→業務的意思決定（受注の可否などの短期的な意思決定）

長期的意思決定→構造的な意思決定（設備投資の意思決定など）

③ 関連原価と埋没原価

関連原価→意思決定に関連する原価→「こっちを選ぶとこれだけ必要」
（未来原価）

無関連原価（埋没原価）→意思決定に無関連な原価→「もう買っちゃったので仕方ない」
（過去原価）（サンクコスト）

意思決定にはどちらの原価が重要か？→もちろん関連原価が重要
関連原価（収益）の2要件

1. 将来の原価（収益）であること
2. 代替案で発生額が異なること（差額が生じること）

※収益は同じだが、原価が異なるケースもある。

★関連原価の種類（構成要素）

関連原価＝増分原価＋機会原価

○増分原価→代替案を選択すれば増加する原価

○機会原価→日給 3,000 円のアルバイトを断って 5,000 円の同窓会出席

機会原価＝3,000 円

※ある代替案を選択した（同窓会）ときに、失う利益（アルバイト）

④ （日常）業務的意思決定＜手不足と手余り＞

〔需要＞供給〕 仕事はある→人手不足→外注に頼む→売上増加

〔需要＜供給〕 仕事がない→人余る（遊休能力）→格安受注の依頼→売上増加

こんなイメージでとらえておこう

では設例で確認しよう

＜設例 19.1＞（かなり簡単）

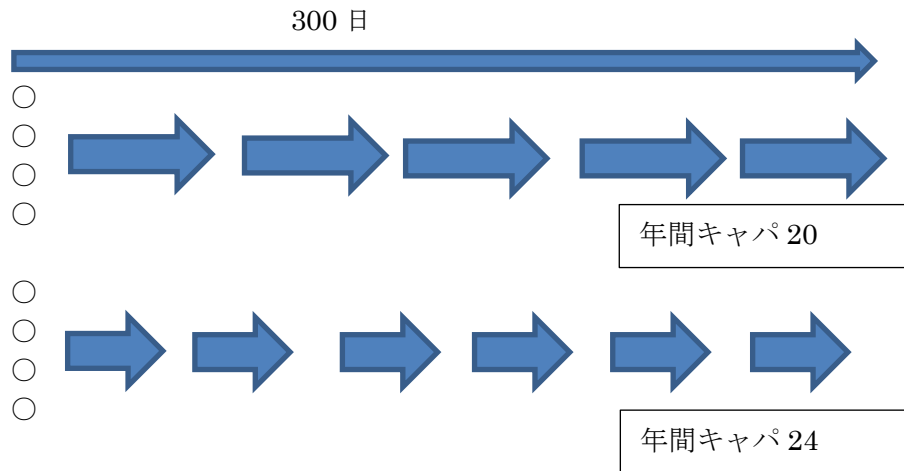
余力（遊休生産力）あり・受注時も固定費増加なし

A 社の差額利益 120

B 社の差額利益 150

∴ B 社の案件を受注すべき

設例：19.2



<手不足時：外注作業を増やせばよい>

貢献（限界）利益ベースで比較

<現状> $3,100 \times 20 = 62,000$

<改善> $2,800 \times 24 = 67,200$

改善案の方が有利

では、何件以上の受注が有利か？

$3,100 \times 20 \text{ 件} = 2,800 \times X \text{ 件} \rightarrow X = 22.14 \rightarrow 23 \text{ 件以上が有利}$

<手余り時：24 件こなす能力できても、仕事がないので 20 件しかできない>

コスト増えるだけ $\rightarrow 300 \times 20 = 6,000$ の損

設例 19.3

テキストでは機会原価の概念使っているが、購入側に持っていくと

△1,500,000（原価を低減させる要素）

問題文に機会原価使う明確な指示なければ、どちらでもOK

	自製	購入	備考
直接材料	3,000,000		
直接労務費	4,000,000		臨時工
変動製造間接費	4,500,000		<例>電気代
固定製造間接費	7,000,000	5,000,000	2,000,000 円は自製用のレンタル機材 5,000,000 円は工場家賃
賃貸収入		△1,500,000	
購入原価		16,000,000	
合計	18,500,000	19,500,000	自製の方が有利

※備考欄に書いているようなことをイメージしたほうが良いでしょう

※テキストにも書いているが、財務的要素だけで意思決定をすることはない

19.1

増分原価→代替案を選択した時に増加する原価

差額原価→複数の代替案で、ある案の原価を基準としたときの他の案の原価との差額

機会原価→ある案を採用した時に、採用しなかった複数案の中で最大の利益

たとえば、横山が 1/24 日に簿記講座を行った時に得る利益 10,000 円としよう。

この時に実は他の 2 つの仕事があった。

① 弥生会計インストラクタの仕事 (15,000 円の利益)

② ネットワーク設定の仕事 (12,000 円の利益)

この場合の機会原価は 15,000 円である

埋没原価→複数の代替案で意思決定を行う時に、意思決定に関連しない原価

例えば、既に投資済みの設備の減価償却費など

19.3 (これは簡単ですね。)

差額収益→もちろん 9,800,000 円です

差額原価→受注した時に増加する原価です。 $5,550,000 + 380,000 = 5,930,000$

差額利益 $\rightarrow 9,800,000 - 5,930,000 = 3,870,000$